

「PDAに関するアンケート調査」 PDAブレイクの鍵は「通信環境の改善」

株式会社コンピュータ・ニュース社（本社：東京都文京区、代表取締役 奥田喜久男）の市場調査部門であるBCN総研がホームページ上で行ったアンケート調査によると、PDAに興味を持つ非所有者の7割強がPDAで「電子メールの送受信」をしてみたいと考えていることが明らかになった。だが、PDA所有者の利用状況を見ると、現在の通信利用率は4割程度にとどまっており、約3割は「以前は通信をしていたが、今はしていない」と答えた。通信に対する潜在ニーズの高さと利用実態のギャップは大きい。

BCN総研は、東名阪のパソコン大手販売会社16社（エイデン、大塚商会、ランド、グッドウィル、コンプ100満ポルト、コンプマート、さくらや、上新電機、ソフマップ、九十九電機、T-ZONE、デンコードー、ニノミヤ、ピーシーデポコーポレーション、ピックピーカン、ラオックス、ワンダーコーポレーション=50音順）733店舗（2002年07月01日現在）の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。このデータをもとに、PCリテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています（毎月第2、第4金曜日の発行となります）。

今回の調査結果によると、PDA所有者は回答者全体の9.5%。非所有者の約6割はPDAに興味を示していることがわかった。

PDAに興味を持つ非所有者を対象に、PDAで利用したい用途を聞いたところ、「電子メールの送受信」が75.7%でトップとなり、「住所・電話番号管理」（62.8%）、「メモ帳代わりに」（61.7%）が上位を占めた（図1）。

一方、PDA所有者の利用状況を見ると、一番多かった利用用途は、「メモ帳代わりに」の77.4%で、「住所・電話番号管理」（68.1%）、「スケジュール管理」（61.3%）と続く（図2）。

PDA所有者の通信経験をみると、経験者が約7割に達するものの、現在でも通信を行っているユーザーは、約3割程度となった。利用者の機能別満足度をみると「通信状況」は、他の項目と比べても比較的不満層が多い（図3）。この結果から、通信利用率の落ち込みは、利用ニーズの変化というよりも「通信環境の悪さ」にあるとみられる。

購入者のほとんどが男性ビジネスマンというPDA市場だが、ソニーの「Clie」や東芝の「GENIO e」など高機能でエンターテインメント性を高めた製品の登場により、PDAに対して興味や関心を示す層が広がりつつある。通信環境の改善や、無線LAN環境拡充などがブレイクの鍵になるといえる。

* 本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。

赤島までご連絡下さい（akashima@bcn.co.jp）。

図1 PDAでやりたいこと（非所有者でPDAに興味があると答えたユーザー）

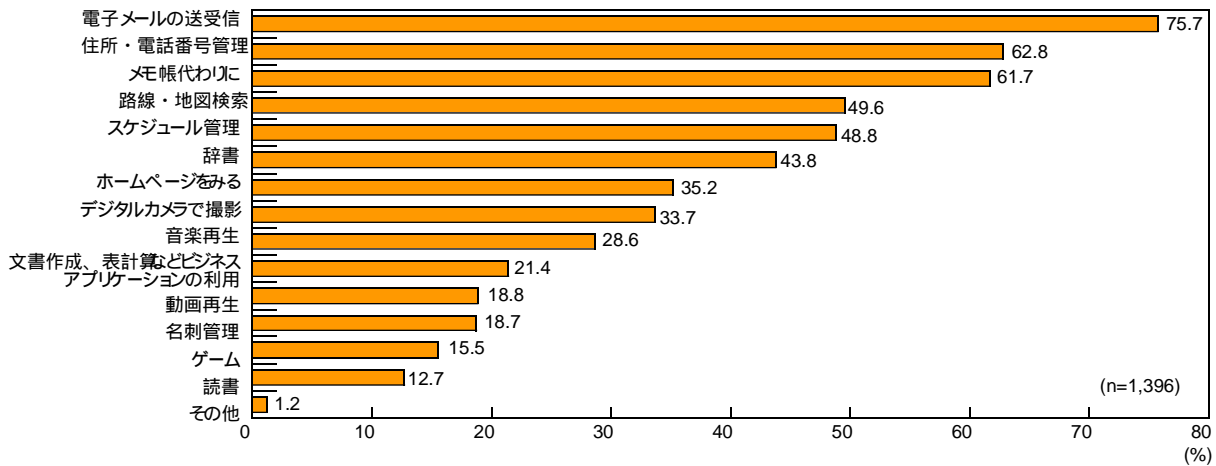


図2 PDAで利用していること（PDA所有者）

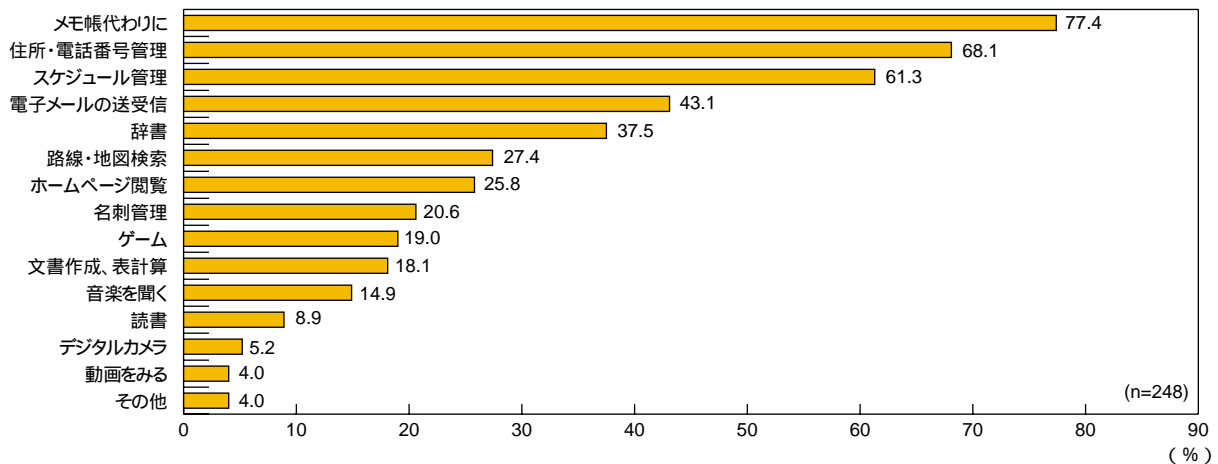


図3 PDAで満足していること（PDA所有者）

